

世界を魅了する江戸写し絵

— 実績 —

平成22年4月

アメリカ シカゴ大学・ロックフェラー記念教会

平成22年7月

ドイツ ボン大学・早稲田大学共同招聘講演

平成22年11月

国際交流基金派遣「東欧四カ国」江戸写し絵公演
ポーランド・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア



たるま夜話



江戸の写し絵 日本最初の映像劇

幻の芸能「江戸写し絵」 みんなわ座によって現代に復活

二百年前、カラーによる光学映像劇(レンズを通した)が日本で開始されました。

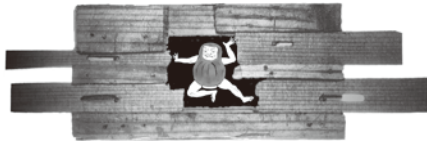
浮世絵師がガラスに描いた絵を、「風呂」と呼んだ幻灯器で映し、「義太夫」などの語り芸に尺八などの音曲をつけ、「写し絵師」と呼ばれた芸人が語りにあわせて、「文楽」が人形を操作するように、映像を操作して劇を演じていました。

「日本アニメ」の原点

日本独自の映像操作術

登場人物が個々に動いてドラマを演じる技法は、当時のヨーロッパよりも遙かに高いレベルにあったと、近年、西欧の映像研究者が発言しています。

写し絵は、劇映画の先駆的技法でドラマを演じており、世界映像劇史上、最も初期に登場したものでした。「描いた絵」を動かす技法は、現代のアニメーションに先駆けるものとして、「日本アニメ」の原点とも、評価されています。



日本伝統の「からくり仕掛け」を随所に応用

表紙の絵は、「両国の川開きの景」です。当時流行した「歌舞伎」や「文楽」「手品」の「からくり仕掛け」を取り入れ、映像ならではの仕掛けに発展させました。

この絵では、七台の「風呂」を使っています。小さな景色を映し、それを合わせて大画面を構成するという、西欧にはない独創的な画面構成をしています。又、「風呂」を手に持つことで、投影された人物を自在に動かすことができ、より表現豊かな芸能へと高めることができました。



舞台裏で写し絵を操作する様子

だるま夜話の物語

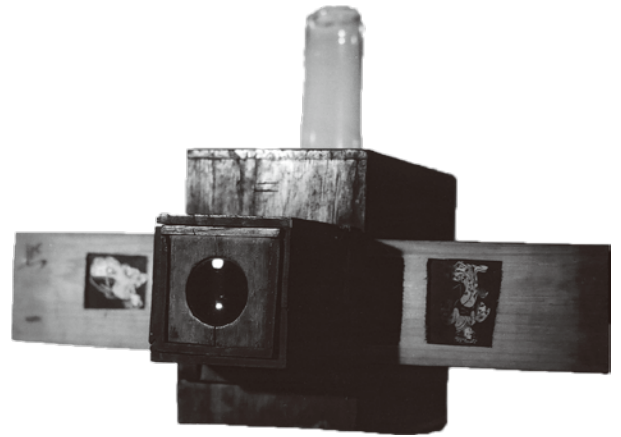
あるお屋敷の床の間にだるまの掛軸がかかっていた。

そのだるま、真夜中に掛軸から飛び出した。やがて手が出て足が出る。

部屋に残っていたお酒を見つけ「いただきます」と勝手にごっくん、ごっくんと呑んでしまったからさあ大変。酔っぱらっただるまが扇子を持って、あらよ、こらよと踊り出す。隣の部屋で寝ていた奥方が騒ぎに目をさまして起きてきた。だるまは慌てて掛軸に逃げ帰った。起きてきた奥方。だるまの掛軸を見て腰を抜かし…。



江戸を騒がせた滑稽芝居が、平成の世に甦る。



写し絵の道具「風呂」と「種板」(明治時代のもの)



舞台裏で写し絵を体験する子ども達の様子

〒152-0001 東京都目黒区中央町1-15-21 TEL 03-3710-1061 FAX 03-3710-1408

お問い合わせはフリーダイヤル(通話料無料) **0120-03-1061** をご利用下さい

E-mail info@minwaza.com ホームページ www.minwaza.com